

# 国語

(中三)

(文学的文章)

\*解答・解説

使用教材

「故郷」

(光村図書

P106

～

P120

)



川越市マスコットキャラクター

(1) 屋根には一



「この古い家が、理由を解き明かし顔である」に擬人法が使われています。住み慣れた古い家が、決して楽しい理由でなく帰郷した「私」を納得させるかのように語りかけてくれるのです。また、屋根一面に枯れ草が生えている様子から、屋根の手入れもできないほど、この家が裕福でないことが読み取れます。

(2) 新年になればルントウがやって来るから。



「待ち遠しい」とは心待ちに待っていること。ルントウの父は自分の息子に祭器の番をさせたいと「私」の父に申し出ました。それを聞いて、かねてから同じ年頃のルントウの存在を知っていた「私」はやっと会えるのだとうれしく思います。

(3) ウ



未知の世界で生きているルントウに対する敬意と憧れを表現している。

☆ (4) 身分や境遇の違いによってできた心の隔たり。



「私」とルントウの間を隔てる「何か」を、「壁」と表しています。ルントウは中国民衆の伝統的な社会意識から自由になれないことと、「私」の思いに応じることができません。「私」もまた、そんなルントウを取り巻く現実に対して無力です。当時の中国社会の悲劇の縮図であるがゆえの「悲しい」「壁」なのです。

(5) 一人では困難なことでも、多くの人が同じ希望をもち、その実現に向かってみんなが努力すれば必ずかなえられるということ。



離郷する「私」の心の中には未来への希望があります。この「私の希望」は同じ志をもって行動する人が増えることで実現につながるでしょう。「希望」を「道」にたとえることで、確かなものになっていく可能性を暗示しています。